

た。筆者が1936年ステルマ教授を訪問した所、彼は此の研究所の完備した事務所、研究室及び圖書館に案内した。又、價格にして20,000弗もする微分方程式を取扱ふ最新計算器の一つを最近装置する筈の部屋にも案内した。

不可思議な極光は一つ一つと秘庫を拓いて來た。研究的理學者の手によつて研究の數學は、再び自然に基礎的な統一を暗示して、宇宙線研究に適用される證據を示しつつある。

「美は存在に對して其れ自身の辯解である」と感得する數多の詩的な心は、恐らく此の廣大な美觀を説明するの必要に依つて亂されるものではないと思はれる。然し彼等が事物の真相を理解する時に一層幸福なる、理學的な好奇心に依つて他の多くの賜物が惠まれるのである。（「天空を探る」より——佐登兒譯）

## 學 界 消 息

カナダのギクトリヤ天文臺長ハーパー W. E. Harper 博士は去る六月4日逝去した。氏はカナダ有數の天文家で、1918年ギクトリヤ市郊外に天體物理天文臺が創設されるや、初代臺長 J. S. プラスケット博士と共に、オタワ天文臺より此所に移り、専ら72吋大反射鏡によつて分光連星の觀測と軌道計算を勵み、1937年以來、退隱したプラスケット氏の後を繼いで、第2代の臺長となつた人であつた。

キルソン山天文臺のエラマン Ferdinand Ellerman 氏が去る三月20日にバサデナ市で逝去した由。氏は元シカゴ市に住み、若い頃ヘイル G. E. Hale 氏の私立天文臺に雇はれて、太陽分光寫眞の助手を勤めてゐたが、ヘイル博士が1897年にヤキーヌス天文臺長となり、更に1904年キルソン山天文臺長となるに従ひ、常に博士の忠實なる助手として轉住し、殆んど太陽觀測のみの専門家として、一生を貫いた篤志家であつた。學歷は餘り無かつたが、米國學界に於ける特異な存在であり、ヤキーヌス、キルソン山等に於いて發表される太陽寫眞の中には氏の優秀な手腕が多く發揮されてゐた。今では、氏の名は學界に於いて、古典的となりつゝあつた。氏は1869年生れであるから、享年71歳である。

長きあたりでは去十二月3日徳川末期の科學黎明期において天體望遠鏡を製作、天文學界に貢獻し、また銃砲の考案などに盡くした國友藤兵衛の百年祭が行はれるに際してその功績を嘉せられて同29日下のとほり贈位の御沙汰あらせられた。

贈從五位(特旨をもつて位記を贈らる) 故國友藤兵衛  
國友藤兵衛は安永7年滋賀縣坂田郡神照村國友の鐵工鍛冶の家に生れ種々武器の考案發明をはじめ天體望遠鏡などを發明して太陽の黒點觀測その他初期のわが國科學界に偉大な足跡を残して天保11年63歳で歿した。(天界 號參照)